

# P2-9 北信地域における頭頸部がんの診断から治療開始までの待機期間と長期休暇との関連

瀧口 知彌, 西野 善一  
金沢医科大学医学部公衆衛生学

【目的】北信地域の頭頸部がんにおいて長期休暇が診断から治療開始までの待機期間に与える影響を明らかにする。

【方法】北信4県(長野、富山、石川、福井)のがん診療連携拠点病院等18施設の院内がん登録データより、2016年から2017年に診断された原発部位が口腔、唾液腺、咽頭の癌腫で、かつ自施設で初回治療が実施されたものを対象とした。

長期休暇の定義は年末年始、ゴールデンウィーク、8月のお盆休暇とし、診断から治療開始までの標準的な待機期間は3週間とした。各長期休暇の期間については下記の表1に示す。

表1: 本研究でを使用した各長期休暇期間の定義

年末年始	ゴールデンウィーク	お盆休暇
2016年 ~2016年1月3日	2016年4月29日~ 5月5日	2016年8月11日~ 8月15日
2017年 2016年12月29日~ 2017年1月3日	2017年4月29日~ 5月7日	2017年8月11日~ 8月15日
2018年 2017年12月29日~ 2018年1月3日		

標準的な待機期間に長期休暇期間がかかっている場合とかがかかっていない場合で実際の待機期間を比較したのち、診断施設、部位、進展度について層別化を行い比較した。

【結果】表2に解析対象者の特性を示す。解析対象の症例数は760例で、うち待機期間が長期休暇にかかっている症例は146例であった。待機期間の中央値は長期休暇にかかっている場合では29日、長期休暇にかかっている場合では34日と待機期間が長期休暇にかかっている場合で有意に長かった。

診断施設別に検討した結果を表3に示す。自施設診断症例では長期休暇にかかっている場合では26日、長期休暇にかかっている場合では31日と待機期間が長期休暇にかかっている方が有意に長かった。しかし、他施設診断症例では有意な差が認められなかった。

部位ごとに検討した結果を表4に示す。咽頭で長期休暇にかかっている場合では33日、長期休暇にかかっている場合では40日と待機期間が長期休暇にかかっている方が有意に長かったが口腔、唾液腺では有意な差は認められなかった。

進展度別に検討した結果を表5で示す。進展度では限局、領域・遠隔転移ともに長期休暇による待機期間の有意な差は認められなかった。

【結論】北信地域における頭頸部がんの治療開始までの待機期間は、長期休暇との関連を認めた。具体的には自施設診断と咽頭で有意な関連を認めた。

表2: 研究参加者の特性

		長期休暇にかかっていない (N=614)		長期休暇にかかっている (N=146)		p value
		(N)	(%)	(N)	(%)	
性別	男	439	71.5	103	70.5	0.820*
	女	175	28.5	43	29.5	
年齢区分	65歳未満	209	34	62	42.5	0.160*
	65-74歳	225	36.6	48	32.9	
	75歳以上	180	29.3	36	24.7	
北陸3県 vs 長野	北陸3県	421	68.6	99	67.8	0.860*
	長野	193	31.4	47	32.2	
症例区分	自施設診断	460	74.9	114	78.1	0.420*
	他施設診断	154	25.1	32	21.9	
部位	口腔	279	45.4	79	54.1	0.086*
	唾液腺	33	5.4	10	6.8	
	咽頭	302	49.2	57	39	
治療前進展度	限局	254	41.4	63	43.2	0.690*
	領域・遠隔転移	360	58.6	83	56.8	
待機期間 (日)	中央値 (25-75%)	29	20-41	34	23-45	0.024**

\*Chi-squared test  
\*\*Fisher's exact test

表3: 診断施設により層別化した待機期間と長期休暇との関連

	25%	median	75%	p value
自施設診断	17.0	27.0	38.0	0.010
長期休暇にかかっていない	17.0	26.0	37.0	
長期休暇にかかっている	20.0	31.0	43.0	
他施設診断	31.0	39.5	53.0	0.428
長期休暇にかかっていない	29.0	39.0	52.0	
長期休暇にかかっている	33	41.5	55.5	

Fisher's exact test

表4: 部位により層別化した待機期間と長期休暇期間との関連

	25%	median	75%	p value
口腔	15.0	25.0	35.0	0.066
長期休暇にかかっていない	14.0	24.0	35.0	
長期休暇にかかっている	16.0	30.0	37.0	
唾液腺	26.0	40.0	50.0	0.127
長期休暇にかかっていない	22.0	35.0	48.0	
長期休暇にかかっている	34.0	46.0	55.0	
咽頭	25.0	34.0	47.0	0.033
長期休暇にかかっていない	24.0	33.0	46.0	
長期休暇にかかっている	30.0	40.0	53.0	

Fisher's exact test

表5: 進展度により層別化した待機期間と長期休暇期間との関連

	25%	median	75%	p value
限局	20	31	44	0.098
長期休暇にかかっていない	19	29	43	
長期休暇にかかっている	25	35	47	
領域・遠隔転移	20	30	41	0.140
長期休暇にかかっていない	20	29	39.5	
長期休暇にかかっている	23	32	43	

Fisher's exact test

(利益相反) 本研究に申告すべきCOIはない